

遺愛吹奏楽定演のオープニングは？

8月6日（日）16:00より市民会館大ホールで開演された遺愛女子高等学校吹奏楽局の定期演奏会は、昨年につき、今年も1,370席完全満席で、座れず立ち見の方も多数いらっしゃいました。（申し訳ありませんでした。）7月29日の全日本吹奏楽コンクール函館地区大会において3年連続A編成金賞で、初めて全道大会への出場権を得たこともあってか、開場前は入場のために長蛇の列ができました。

局員たちは一生懸命準備をし、満員の来場者の期待に応える素晴らしい演奏、ステージを繰り広げ、来られた方はおおいに楽しみ、心から満足されたようでした。

しかしオープニングは来場者の皆さんの予想に反して、楽器の演奏ではなく、讃美歌を局員128名全員で歌いました。その反応は…

「初めて遺愛吹奏楽局の定期演奏会に参加させていただきました。あれほど多くの方々が聞きに来られている事にまず驚きました。そしてその演奏に圧倒されました。素晴らしい演奏会でした。讃美歌のコーラスで始められた事も…その歌詞が心に染み渡りました。そして協賛してくださる方々の人数…こうやってたくさんの方々の理解と応援があり遺愛の後輩達が伸びやかに育てられていると強く感じました。地道にコツコツと積み上げて来られたものなのでしょう。遺愛の卒業生である事が何だか誇らしい気持ちもいたしました。後輩達の精一杯に取り組む姿や表情に感動し涙があふれてさらに応援したいとも感じました。心に残る素晴らしいひとときをありがとうございました。」（同窓生からのメール）

「昨日は素晴らしい、若さに満ちあふれる定期演奏会を有り難うございました。期待を持って待つ、静粛な開幕が局員一同の讃美歌合唱であったことに感動いたしました。遺愛の教育方針の原点を窺い知って感激いたしました。」（招待者からのお手紙）

局員たちが歌った讃美歌は、1954年版：讃美歌338番「主よ、おわりまで、仕（つか）えまつらん。」です。毎年の遺愛合唱コンクールでの高校3年生課題曲であり、遺愛高校の卒業式で、高校3年生だけで歌う最後の讃美歌です。

2017年8月18日（金）



↑

顧問の高久先生のドラムセットもありました。